

## リンパ腫に関する血液培養

現在、白血病と T 細胞型の悪性リンパ腫に関しては、活性化リンパ球療法の適応外になっております。理由は、血液中に存在するリンパ球の中に、ガンが混入し、一緒に培養されてしまう可能性があるためです。

ただし、CD3 の抗体を使ってサイトカイン (IL-2) を取り込むレセプターを開き、IL-2 存在下で、急速に増殖を示す細胞は、正常のリンパ球のみであり、ガン細胞は抗体やサイトカインには反応しないことが言われています。

従って、培養されたリンパ球の比率は正常の元気なリンパ球がほとんどであり、ガン細胞の量は、始めに混入している量からそれほど増えていないことが考えられます。

ただし、ガン細胞を死滅させる処理を行っていないため、点滴中のリンパ球にもガン細胞が混入しているリスクがあるわけです。

他のガン治療と同様に活性化リンパ球療法が効果を示す可能性があり、他に選択肢が無い場合は、リンパ腫にも免疫療法を取り入れるメリットは大いに考えられます。

以上の点を考慮に入れた上で、治療を選択される場合は、こちらで血液培養を通常通り、行わせて頂きます。

リスクとベネフィットを考え、動物病院と飼い主様で、最良の治療の選択を行って頂けると幸いに考えます。

株式会社 J-ARM

名古屋大学医学部細胞治療学講座 岡田邦彦

